

科目名	幼児理解と教育相談
担当教員	義永 睦子・鳥海 順子
授業方法	講義
科目の概要	<p>目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちの芽を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核です。</p> <p>この授業の前半では、幼児理解の基本となる原理とそれに基づく援助の可能性・工夫についてさまざまな視点から学び、考えていきます。</p> <p>授業の後半では、現代の子育て事情を踏まえながら、子供と家庭に関する諸問題について考えます。また、保育・幼児教育の現場で行われる教育相談について、子供の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、「親子に寄り添う」「問題解決を通して親子を育てる」支援を行うために必要なカウンセリングの理論と技法の基本、組織的取り組みや関係諸機関との連携について理解します。さまざまな事例の検討等を通して、実践的な力の習得を目指します。</p> <p>授業の到達目標及びテーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基本的態度を理解している。</li> <li>2. 幼児理解の方法を具体的に理解している。</li> <li>3. 保育現場における教育相談の意義と理論を理解している。</li> <li>4. 教育相談を進める際に必要な基礎的な理論を学び、知識を身につけている。</li> <li>5. 教育相談の場面において幼児や保護者とかかわる基本的態度について、理解を深めている。</li> <li>6. 教育相談の場面において幼児や保護者とかかわるための方法および技法を身につけている。</li> <li>7. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。</li> </ol>
	<p>「幼児理解に基づいた評価（平成 31 年 3 月）」は授業前半で使用するテキストです。平成 29 年の幼稚園教育要領の改訂を受け、「幼児理解と評価」（平成 4 年初版刊行、平成 16 年一部修正、平成 21 年加筆修正）の記述内容を見直したものです。</p> <p>「幼稚園教育要領」は、幼稚園教育において幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を重視しなければならないとしています。そのためには、教師が指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすることが求められています。「幼稚園教育要領解説(平成 30 年 3 月)」は、その際の基本的な考え方や方法などについて解説しています。</p> <p>これらの子ども理解、子ども観、保育観を基盤とし、保育の構成や進め方についての考えを保育者が言葉にして表現し、保護者と共有することは、教育相談を行う上での基礎となります。</p> <p>授業後半のテキスト「子ども理解と教育相談—移行期支援の視点から—」では、子どもの教育相談・カウンセリングについての基礎知識、保護者との幼児理解の共有および教育相談の進め方に関して、幼児期から学童期以降の移行期支援の視点も含めて扱います。</p>

2022 武蔵野大学 通信教育部 幼免上進シラバス

	<p>特に幼児期の相談のための知識やスキルのための情報などは、適宜、資料集や参考文献の情報を参照しながら学びを深めてください。</p>
<p>授業計画</p>	<p>WBTで出題される所定の回数のエクササイズに合格の後、WBT上で行われる単位認定試験に合格することで2単位を認定します。</p> <p>&lt;自宅学習&gt;</p> <p>第1部 第1章 幼児理解の意義と原理          第1部 第2章 幼児理解の理論と方法          第2部 保幼小中高の教育相談と移行期支援の基礎知識          第3部 教育カウンセリングの基礎基本および組織内外の体制と連携          第4部 実践・教育カウンセリング</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>単位認定試験</p>
<p>備考</p>	